

昭和42年7月2日
茨城県東茨城郡
内原町経橋
鯉洲学園同窓会

鯉洲学園創立二十周年 記念事業中間報告

本年四月二十五日、農民教育協会理事会と合同で開催された鯉洲学園創立二十周年記念事業委員会には、大沼理事、萩原会長、和田副会長が出席。その席で記念事業委員会東畑会長から次のような報告がなされた。

鯉洲学園は昭和二十年十一月一日、全国農業会高等農事講習所として発足し、昭和二十三年に全国農業会の解散に伴って、財団法人農民教育協会を設立し（設立者・東畑精一他九人によって）高等農事講習所の全施設、教職員及び学生を継承現在に至った。昭和四十年は創立二十周年にあたるので、鯉洲学園創立二十周年記念事業委員会を組織して、記念式

典、記念史の編纂、記念会館建設基金の造成、この三事業を実施することを定め、爾来それぞれ推進してきた。ここに次の通り記念事業の概要について報告する。

一、記念式典の挙行
昭和四十年十月十六日鯉洲学園において全国の関係団体、地元県の代表者及び同窓生など五〇〇余名の来賓

を連れて盛大に挙行することができた。

二、記念史の編纂

記念史は全国農業会高等農事講習所創設当時の経緯、組織と運営、陣容と教学機構、財団法人農民教育協会設立の経過、組織と運営、財政、教育課程の変更等について、主として学園教育二十年の歩みを沿革、教育の理念、教科課程の変遷、各農場の発展の経過、対外教育活動、卒業生の動向等の諸側面から記述することとし、目下学園の教授が中心になって編集であり、本年半ばには完成の運びである。

三、記念会館建設基金の造成

この基金の造成は二カ年計画（四十年四十一年度）をもって達成する方針の下に全国の関係団体及び同窓生に協力を呼びかけ、その成果は前紙の通りである。

なお、記念会館の建設資金は上記基金と昭和四十二年度に於て農林省

より施設費として補助予定の二二六三万一千円をもって、大教室を新築し、これを二十周年記念会館とも呼称することとする。

四、記念事業収支決算見直し

別紙のとおり

以上の通り報告する。

昭和四十二年三月三十一日

鯉洲学園創立二十周年記念事業委員会

会長 東畑 精一

なお、収入科目の同窓会寄付金は二月末日の総収入一、四〇二、一四八円から募金経費二二一、一〇〇円と、記念史代（二五四、〇〇〇円）を繰入金として差引いた額九二七、〇四八円、それに通信教育終了生から直接委員会に送金された分（但しこの分は三月末までを含む）四四分（二〇〇円を合計した額一、三七三、二四八円となっている。募金経費は当然募金目標額の中に入るのので、この時点で募金実績は一、五九四、三四八円となる。

7号

旭洲学園創立20周年記念事業收支決算書 (続編)

(昭和42年3月31日現在)

収 入 の 部

△印 予算に対し減を示す

科 目	決算額	予算額	増 減	備 考
	円	円	円	
1. 寄 付 金	3,559,537	6,270,077	△ 2,710,540	
(1)中央団体寄付金	530,000	1,070,070	△ 540,070	農林中央金庫他1件
(2)都道府県団体寄付金	1,259,000	1,775,000	△ 516,000	北海道農協連他31件
(3)市町村農協組寄付金	341,000	1,130,077	△ 789,077	青森県平河町農協他30件
(4)同窓会 会員 寄付金	1,373,248	2,210,000	△ 836,752	同窓生1,090人 927,048円 通信教育同窓生431人 446,200円
(5)その他寄付金	55,289	90,000	△ 34,711	預金利息他
2. 同 窓 会 繰 入 金	250,000	250,000		記念史買上費として繰入れ
3. 農 民 教 育 協 会 繰 入 金	400,000	400,000		一般会計より繰入れ
計	4,212,517	8,850,177	△ 4,637,660	

支 出 の 部

科 目	決算額	予算額	増 減	備 考
	円	円	円	
1. 委 員 会 費	353,677	477,077	△ 123,400	
(1) 会 議 費	4,411	41,000	△ 36,589	委員会費、募金、式典等
(2) 旅 費	92,227	171,077	△ 78,850	同上出席旅費等
(3) 用 人 費	71,125	75,000	△ 3,875	臨時雇人費
(4) 事 務 費	191,817	215,000	△ 23,183	2年の歩み、趣旨書等印刷費及び一般事務費
2. 事 業 費	3,449,883	4,451,000	△ 1,001,117	
(1) 記 念 史 編 纂 費	599,527	711,000	△ 111,473	編纂諸費
(2) 式 典 費	414,515	400,000	14,515	式典諸費
(3) 記 念 会 館 建 設 基 金	2,815,301	5,440,000	△ 2,624,699	記念会館建設資金充当可能額
(4) 雑 費	19,540	50,000	△ 30,460	
計	4,212,517	8,850,177	△ 4,637,660	

二十周年記念会館

大教室—建設計画すすむ

資金面で難行していた二十周年記念会館—大教室—の建設は、当初計画からすれば完成の時期もおくれ、規模も小さくなったが、ようやく四十二年度中に完成する見とろしがたち、六月二十四日には同窓会、学園当局、農民教育協会事務局の三者合議を開き、資金の調達結果によって若干の変更を含む建設計画を決定。次のような内容を盛り込んだ設計を農林省に依頼、七月中旬には設計担当者が学園の建設予定地を視察、詳細な意見交換の後設計に着手、現在の見とろしでは八月中に施工者の入札、九月着工、年度内完成と思われる。

特に資金面では、在学生の父兄、茨城県、そして卒業生にはさらに協力を願い、一九二坪の記念会館を是非とも実現したいと、関係者一同最後の力を傾注している。

なお建設場所は教室(第一、二、三教室の棟)の北西に隣接する桃園の中で、教室と十間ほど平行させる。建設単価は坪九万円、計一、七二八万円、設備費二二〇万円を加えて、総額一、九四八万円の計画となっている。平面略図は次の通りである。

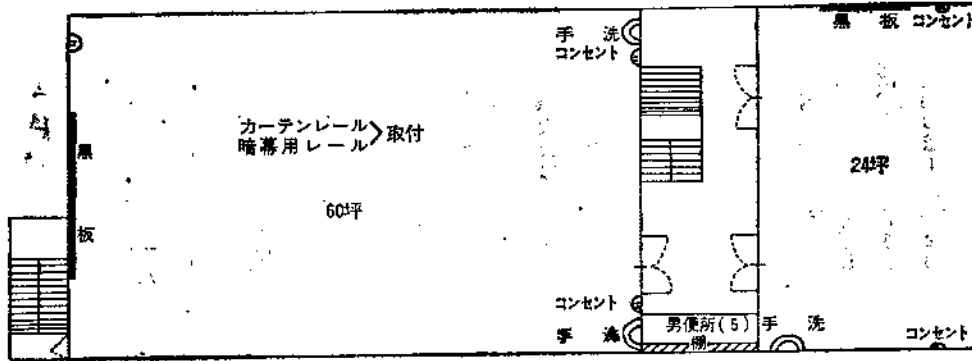
記念会館建設基金寄付芳名簿

中央団体関係	農林中央金庫	二〇万円	全国信連協会	二万円
全国購買農協連合会	一〇万円	家の光協会	五万円	
全国販売	五万円	全国農業会議所	二万円	
全国共済	五万円	農林漁業金融公庫	一万円	
全国実業	一万円	合計	五三万円	
全国農協中央会	二万円	都道府県団体関係八二件、市町村農協		
		組関係六一件、その他五件の、芳名は紙		
		名の都合で省略させていただきました。		

記念会館—大教室—平面略図

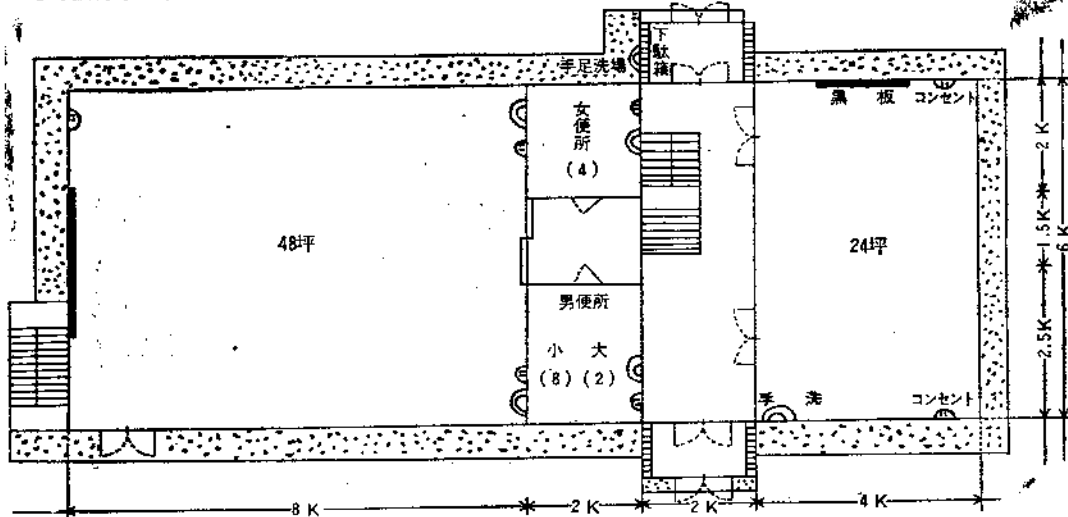
総坪数 192坪
 総経費 1,948万円

(二階 96坪)



資金計画

(一階 96坪)



二十周年記念会館建設

資金計画

建設資金 一九四八万一千円

(1) 農林省補助金 一二六三万一千円

(2) 同窓会、農協団体等の寄付金 二八〇万〇千円

(3) 父兄寄付金(予定額) 一二〇万〇千円

(4) 関係機関寄付金(予定額) 二八五万〇千円

右のうち、(1)及び(2)については既に資金の準備が終了、(3)については今春四月入学式列席の父兄に事情を話して了解を得、七月はじめには在学生の協力方もお願いして、近々中に依頼文書を発送の予定。(4)については同窓会にさらに協力を求める一方、地元茨城県にも助成を依頼、その他の関係方面にも援助をお願いして、是非とも予定額を調達したいと奔走している。

同窓会第八回大会の日程決まる!!

大会日 十二月三日(金)

場所 鯉淵学園 講堂

二十周年記念事業の進捗状況などから今年三月の定例常任委員会での決定を見送って参りましたが、七月の定例会議を六月に繰上げて大会の日程を検討、大会日を十一月三日(金曜日・文化の日)と決定しました。

十一月三日は、第六回大会で一大会は隔年毎に秋季開催すると会則に定めてはありますが、毎回開催日の変更されることは遠隔地からの出席計画がたてにくい。特別の事情がない年は一定の日を定めた方がよいではないか」との発議があり、審議の結果定められた日であります。事務局としては二十周年記念事業の記念会館完成を共に祝い出来るならば、大会の日程も若干遅延してもと考えておりましたが、現況では資金の調達等で年内(十二月末)完成は確約出来ず、間違いない竣工出来ると見られる翌三月は、多くの

おいで下さった方々に少しでも楽しいひとときを過ごしていただけるよう頑張りたいと思います。経費の点はご出席の方々に一般会費の外に一人千円程度(食事、宿泊、懇親会費などを含めて)ご負担願うことになりました。また準備の都合上、十月十日頃までに出席の可否、食事、宿泊等の申込みを事務局宛にお願い致します。

支部だより

千葉県支部の近況

二期 剣持 義虎(千葉県勤務)

「今日は、兄光太郎のレンギョウ忌ですが、そちらへの出席をことわって出させていただきます。鯉淵学園から西村先生が来られるということで、最近とみに途絶え勝ちになっている学校の様子も本当にお聞きしたかったです。加藤先生がおなくなりになったこと等もあって、来られなくなったことについては、西村先生が高等国民学校へ関係しておられた事情もありますのでよくわかりますが、残念なことです。しかし、こうやって沢山の同窓生が集まられた席に呼んでいただくことは非常に嬉しいことですので、こう書いて参りますと最早どなたの御挨拶かわかりのことと思っております。小柄の藤岡先生は前にも増してお元気にけんきよに、やさしく始めから最後まで沢山お話しを聞かせて下さいました。先生を中心に集まった輩十六人、二回卒業生から二十一回卒業生まで、学んだ時代も受けた教育内容も、今ある職場も夫々違う私共が、眼には見えない共通のきつなで結ばれていることを強く感じながらの語らいが夕方遅くまで続きました。

高村光太郎先生が亡くなられたのが四月二日、先生のお墓に纏えてあった「レンギョウ」が黄色い花を咲かせていたその頃であったそうです。その一日前四月一日は、人寄って「レンギョウ忌」と名付け、故人を偲ぶのだそうです。肉親の藤岡先生が、そちらへ出席なさらず、私共の会に御参加下さったことには、一回胸つまる思いがいたしました。以前にも増してお耳が遠くなられたことは残念ですが、先生は一耳が遠くなりました。それで水生さしています」と、にこやかに話しかかみながら話しておっしゃってあります。「祖父、みの吉も八十才過ぎまで、父光雲も八十四才まで生きました」と語っておられました。先生も思う存分水生さされるよう御健康を祈ってやみません。

さて私共は、このような雰囲気の中かで話しを進めたのですが、集ったところは、千葉市の中心街深井と言っても今は面影もない昔しの料亭街の一角「梅松」。

午後三時、遅くは汽車で一時間半もかかるところから、三三五五徒歩で乗用車で黒い男、白い男、太った男細った男、口の悪い奴、おとなしい奴、四十才から二

十才台までの若壮年が相寄った訳です。型どおり同窓会費や、記念行事費用等の納入方を依頼し、あとは固苦しいとりきめもなく、何とはなしに昔の話しやら現

況やらを思い切り話し合いました。ごく簡単に集った連中の近況を先づ報告します。



況やらを思い切り話し合いました。ごく簡単に集った連中の近況を先づ報告します。

十二期の鈴木信雄君と吉川明君は、広報の専門「世広」の重役、持前の才氣と

東京に事務所を持ち、よろず相談に応じますと益々油の乗った感じの加藤総合研究所長三浦地所建設株式会社代表取締役の加藤三代太君、「一ふじ」という料理屋も経営しているのので、「つけ」でなければ気のすまない人はどうぞといっています。

三期の川原富夫君は、海防運輸のエキス、持ち前の真面目さは昔と変わらず、人を使う身のつらさは、おつむにあらわれ、薄くなつて来ました。電車の中などで会っても、二十年振り位に会う人はじっくり見ないとわかりませんので念。二十一期の飯島治通君はわが会の最年少者、目下、下総農高で先生の駒として修業中です。縁あって（昔がそう言う）名字が変りました。

四期生の湯地春男君も一風変わった存在、信用組合の貸付課長で、話しの合間にパッと算盤を手にする癖や

井岡雅愛君は三期生、国家公務員として出発したのですが、レッドで村八分、その後ニコヨンもやり、苦勞をしましたが、一人間は苦勞をしなければだめだと世の中の人は言うが、私の経験からして希望のない苦勞はいくらやっても駄目だ」という哲学を身につけ、真剣な努力をしました。その後トナミ運輸に入り、人事課長では人間関係の苦勞をし、今は次長職にあつて春闘で苦勞しています。

況やらを思い切り話し合いました。ごく簡単に集った連中の近況を先づ報告します。

況やらを思い切り話し合いました。ごく簡単に集った連中の近況を先づ報告します。

況やらを思い切り話し合いました。ごく簡単に集った連中の近況を先づ報告します。

況やらを思い切り話し合いました。ごく簡単に集った連中の近況を先づ報告します。

顔色が悪いのが気にかかりますが、好漢
白重あれというところ。

二十才台の若さはマーシャヤンなども
及ぶようだが、基序園芸農産課に勤めて
いるのが松家君、香川大学、香川農序と
実力に任せて移り多いたる英才です。
これも縁あっての口。岡野貞良君、石
橋と名乗って、農林省千葉統計調査事務
所で活躍しています。佐原の釣場の近く
に居るので、釣り狂はいつでもどうぞと
言っております。

農業団体のメッカ千葉原農協中央会で
活躍しているのが、十三期の池田勝夫君
です。落着いた思考型、不動産会社で問
題を起した暴走についての考えは聞きも
らしたが、心配のことと思えます。

会に遅れて舞い込んで来たのが伊予郎
君、と言っても一寸とおわかりになるま
いが、野姓不安者、光町の家畜診療所と
授精所を受持って地元で仲々評判のよい
獣医さん、酒は呑めると見受けました。
奥さんは美人、お子さんは二人。もう一
人連れて来たのが岐阜出身、三期に入る
高井徹君、彼も苦勞の人、努力の人、今
は牛乳を振う愛興社の社長、店舗四店一
日一万数千本を振う千葉最大の牛乳店、
店員に対して人間味があり、城主として
の首領充分です。会が終って残党を集め
彼の運転する自動車で、各自の奥さんの
もとへ夫々配給していただきました。
その他どうしても都合が出来て出席の

出来ない人から連絡がありました。旧姓
山口、現在林晋枝さん。お子様二人のよ
きママさん。電話の声は昔のまま、いと
もほがらかで幸福と見受けました。又市
川市農協で活躍の児玉英嗣君、熊谷千代
子さんと御結婚、御一緒で参加下さる予
定のところ急に仕事が出来て参られませ
んでした。学園の皆様によりしくとのこ
とでした。

以上夫々所を得て人間らしく生活して
おりますので、学園の先生方には御安心
下さい、ますよう御連絡いたします。
農業も今のところ問題を抱え放して
私共直接その業にたずさわりながら、そ
の糸口さえつかめない状況にあります。
最早何が農業問題を論ずる勇気もなく
なりそうです。

一度学園へ押しかけて思い切り農業の
諸問題を語りあかす日を待ちたいと思
います。諸先生方の教えからやや達のいた
感があり、お互いが謙しい気がしていま
す。長くなりましたが、最後に学園長始
め諸先生方の御健康と御活躍をお祈りい
たします。

(前ページ写真 前列向って左から
井関君、伊予郎、藤岡先生、制持君、
吉川君、中列左から川原君、湯地君、
斉藤君、油田君、星野君、加藤君、後
列左から飯島(斉藤)君、石橋(岡
野)君、鈴木君、松家君、女性三人は当
日の世話係)

酪農場の整備進む

昭和四十年年度より三カ年計画で進めて
きました酪農教育施設の拡充、整備も本
年はいよいよ最終年となりました。前回
も御紹介したように第一年度(昭和四十
年度)は、搾乳場一棟(一四平方坪並び
にパイプライン式ミルクカー(六頭搾
り用)、育成牛舎一棟(三三平方坪、大
型サイロ一基(六〇トン入)、バルクク
ーラー一合(三六〇キロ入)、トラクタ
ー二〇馬力一台並びにボットムブラウ
台をそれぞれ施設又は導入いたしました。

第二年度(昭和四十一年度)は、学生

寮一棟二〇五平方坪、堆肥舎一棟一六六
平方坪、管理室三三平方坪、野外食槽七
〇個分、運動場舗装五八七平方坪、マニ
アスプレッダー一台四輪トラクター一台
をそれぞれ整備完了いたしました。

第三年度(昭和四十二年度)は、農機
具倉庫肥料、飼料倉庫各一棟の建設と敷
地内道路の一部舗装の他、大農機具類六
点の導入を予定しております。

以上、第三年度が終了いたしますと備
設、設備の面では一応の整備が終ること
になりますが、酪農経営の合理性を追求
し、その過程並びに成果を学生を始め広
く部外にも供覧するためには、その整備
を一日たりともゆるがせに出来ないので
今後とも日進月歩する科学・技術を進化
吸収して、その成果を高めるよう進めて
まいりたいと思っております。なお、この
施設整備の資金は地方競馬会の助成と、
農林中金よりの借入れによっておりま
す。関係方面の方々に感謝いたします。
最後になりましたが、乳牛の現有勢力
は勢五七頭となり、うち成牛四〇頭、
育成牛一七頭となっております。四十二
年度の搾乳計画量は二〇万キロとしてお
りますが、四月六月の搾乳実績より見ま
すと目標達成はほぼ間違いないよう
です。



(学生寮一つくし寮)



(牛舎と運動場)

昭和四十二年度入学状況

本科—志願者数四五〇名のうち、文書による選考を経て一五三名入学、そのうちわけは、農業科七一名、農業協同組合科四二名、農村生活科四〇名。

専攻科—志願者数一名、入学者一名。

特別選科—志願者数一八名、入学者数一七名。

通償教育—昭和四十二年四月二四四名入学（第四四生）

年々、卒業生の推薦による入学志願者が相当数あり、皆様の助力添え、まことに有難く感謝申し上げます。多数の志願者中より、定員を超過せねばなりませんので、時にはご期待に添えぬ場合もあり、甚だ申し訳ありませんが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

学園教職員の人事移動

(四十一年以降)

退職—加藤さみ江（41・3・31付・図書部勤務）、鈴木文子（42・1・15付・教育普及家勤務）、田淵秀夫（42・3・31付・園芸担当教授）

採用—横井和子（42・4・1付・教務課勤務）、小野口遊子（42・4・1付・教育普及家勤務）、梶浦実（42・4・1付・園芸担当嘱託教授）

学園創立二十周年

記念事業資金応募状況報告（第六回）

昨年十一月末までに合計一、二九八、〇四八円のご応募をいただいておりますが、さらに十二月一日より本年五月三十一日までに次の方々のご応募をいただきました。（※印は記念史代を含む、再合計は再度にわたってご協力下さった方で前回との合計です）

- 北海道—石橋孝一（19・一五〇〇※）、西田静雄（21・八〇〇）、札幌久子（17・一〇〇〇再合計二〇〇〇※）、中西孝道（16・六〇〇）
- 青森—鎌田美希（12・二〇〇〇※）、岩手—大坪享三（13・一五〇〇※）、廣野武（4・三〇〇〇※）、富城—銀山良司（19・一〇〇〇※）、本間春香（通一・一〇〇〇再合計二〇〇〇※）、秋田—桑名健一（4・二八〇〇※）、小川一見（19・五〇〇〇）、山形—竹津広（6・一六〇〇※）、
- 茨城—富田幹雄（特一・五〇〇〇※、再合計一〇〇〇〇※）、中根市郎（15・一〇〇〇）、菊地芳子（10・一五〇〇）、後藤功一（9・五〇〇〇再合計二一〇〇〇※）、特別選科3回生二回二四人（二二〇〇〇）、岡崎繁（20・一五〇〇〇※）、群馬—島村初太郎（2・二〇〇〇）、島村多恵（11・一〇〇〇〇）、埼玉—吉田健治（
- 15・六〇〇）、加藤秀明（17・一〇〇〇）、千葉—児玉英顕（19・八〇〇）、児玉千代子（23・五〇〇）、杉本守城（10・一五〇〇※）、上野泰郎（19・一〇〇〇※）、東京—植田晴男（5・二七〇〇※）、安藤潤雄（13・一五〇〇※）、江崎清一（7・一八〇〇）、佐吉達男（17・三〇〇〇再合計四〇〇〇〇※）、大谷松子（12・一〇〇〇再合計二五〇〇〇※）、宮下俊文（6・八〇〇）、林田公明（7・二七〇〇〇）、黒木勉（8・二〇〇〇※）、渡沢保彦（9・二〇〇〇〇※）、中西昭二（9・二〇〇〇〇※）、千田徳生（9・二〇〇〇〇※）、島崎光博（9・二〇〇〇〇※）、斎藤常夫（9・一五〇〇〇再合計二〇〇〇〇※）
- 新潟—大村芳美（3・一五〇〇〇※）、北条定喜（2・三〇〇〇〇※）、石坂美智子（17・一〇〇〇〇再合計二〇〇〇〇〇※）、南雲厚二郎（16・一五〇〇〇〇※）、佐藤和

昭和四十一年度（二三期生）卒業状況

本科—四十年四月一二三名入学、その後九名休退学、四十二年三月一二四名卒業。その内わけは、農業科六〇名、農業協同組合科三三名、農村生活科二二名。

専攻科—四十一年四月二名入学、四十二年三月二名終了。

特別選科—四十一年四月二七名入学、その後三名退学、四十二年三月二四名終了。通償教育—昭和四十年四月四一六名入学、昭和四十二年三月二七九名終了（第三回生）

一郎(2・二五〇〇※)、高山・水野嘉孝(5・二三〇〇※再合計三三〇〇※)、福井・仙城律(9・一〇〇〇再合計三五〇〇※)、北野祐一(13・三三〇〇※)、長野・米沢操(8・三三〇〇※)、関島芳一(17・八〇〇〇※)、上沢好英(11・二三〇〇※)、岐阜・熊谷悦近(19・六〇〇〇再合計三九〇〇※)、今福正(3・一三〇〇)、静岡・大石道夫(5・九三〇〇※)、愛知・駿丸義弘(19・一〇〇〇※)、平野勇司(21・一〇〇〇※)、小野田正(11・一五〇〇※)、村松寿雄(11・一五〇〇※)。

滋賀・飯田喜多(20・一〇〇〇再合計二〇〇〇※)、藤本米男(1・四三〇〇※)、京都・曾根力(13・一〇〇〇)、井上雍郎(8・一六〇〇※)、兵庫・山下優勝(5・二三〇〇※)。

鳥取・盛山和夫(11・二五〇〇※)、奥田博子(19・一三〇〇再合計二五〇〇※)、鹿嶋・石田一秀(13・三〇〇〇)、川上高求(21・一八〇〇※)、広島・中山由夫(11・八〇〇再合計二八〇〇※)、立上清(10・一一〇〇※)、山口・野頭孝三(11・一五〇〇※)、松永武之(4・一五〇〇※)、三浦一男(7・二〇〇〇※)。

徳島・住吉孝(17・一〇〇〇※)、坂本太郎(11・五〇〇〇※)、豊崎・赤松友芳(3・二三〇〇)、松浦信一(11・二三〇〇※)、鹿嶋・有村

紀代子(18・一六〇〇※)、沖田・平良勝子(20・一六〇〇※)、四十三年度入学生一岡一五四人(七七〇〇〇)、合計二一七、一〇〇円(そのうち記念史代二四、五〇〇円)。

そうしますと総合計一、五一五、一四八円(うち記念史代二五九、五〇〇円)と相成ります。この外に通信教育修了の皆様さんで、事務の都合上、直接二十周年記念事業委員会にご送金下さった方が四三人、四四六、二〇〇円あります。さらに六月に入っても数名の方からご応募いただきましたが、五月末で今回分を集計し、常任委員会の承認をいただきましたので、六月以降は次回に掲載させていただきますことになりました。

二十周年記念事業委員会での同窓会募金目標額は記念史代を別にして二、二一〇、〇〇〇円となっておりますが、五月末目で一、七〇一、八四八円、目標達成にあと五〇〇、〇〇〇円です。募金実績が、中央団体、都道府県団体、市町村農協等の何れよりもはるかに上回ったことは、これひとつに皆様の母校愛のしからしむところ、執行部一同何とお礼申し上げます。よいかわかりません。

募金目標の達成ももう一息、本事業の資金募集も九月末日で締めくりたいと思っておりますので、未応募の方は方障ご工面下さって、何とぞご協力たまわりますようお願い致します。

事務局だより

一、学園業務の執行体制改善委員会

農民教育協会東畑会長の指示に基いて今後の業務遂行の円滑化とその成果を高めるため、根本的対策をたてることを目的とした長記委員会が今年四月に発足。学園から石橋教授(学園長代行)、近教授(教務課長)、久米教授(農場長)、河合事務課長、協会から池田事務局長、飯尾参事の六氏で構成。来る八月末までに改善案を作成するよう、検討が進められています。

二、学園の財政基盤確立について

同窓会では早くから財政基盤の問題を取上げ、協会理事会にも繰返えし、その善処を要望。昨年八月の理事会では協会、学園、同窓会の三者による学園の将来計画委員会を発足させる決定がなされていることはご承知の通りです。しかしその後も委員会は開かれず今日に至っておりません。一方、農協中央団体で、鯛瀬学園、農業協同組合短期大学を含めた経常と教育について検討しておる模様で、この方も八月中には一応の結論を出したい意向と聞いております。学園代表は加っていませんが、協会から池田事務局長が出席しておられ、私もはその結論に

重大な関心をよせています。

学園の教授会でも、数カ月にわたって鯛瀬学園教育の長期構想一十年後の学園教育を検討しており、このように学園発展のために尽力して下さっている学園、協会の諸先生に心から敬意を表し、かつその成果に期待しております。

三、通信教育修了生の皆さんへ

第三回生(四十二年三月修了)と第一・第二回生で入会金や会費等の納入されていない方は、同封の振替用紙をご利用下さって、九月末日までにお願ひ致します。住所等の変更もその都度お知らせ下さい。

四期生会——来る十一月三日、卒業

してから十八年ぶりの再会を中合せ、一同指折り数えてその日を持っておる様子です。文字どうり多士済々、お蔭で第八回大会は空前の大盛会になりそうです。

後記

——ともするとアゴが出そうなところ、萩原会長、和田副会長、大沼理事らのご尽力と励ましをいただきながら、事務局の仕事と取組んでおります。ご多用のところ近況をおよせ下さった剣持さん、ほんとうに有難うございました。新潟支部総会、東京支部総会をはじめ、各支部の近況、また、諸先生からお伺いした同窓生の活躍ぶりなど、ご紹介しようと思ひながら、とうとう仕事に追われてまとめ切れず、残念かつ申訳けありません。次回は十二月初旬に発行したいと思っております。(七・二〇〇)